

---

# 地球を救った子

りりん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

地球を救った子

### 【Nコード】

N4352S

### 【作者名】

りりん

### 【あらすじ】

地球は大ピンチを迎えていた。

しかし、そのピンチを回避したのはなんと……

西暦2022年、地球は大ピンチを迎えていた。

地球人は知らないと思うが、地球以外にも知的生命体が存在する。その星は、地球より高度な文明を持っていて、地球の存在をも確認している。

「地球人は野蛮だ」

地球人に対する評価は、みな同じだ。地球人は、自らの手で母なる自然を破壊しつくして、いつの日にか必ず宇宙にまでその災いをもたらすであろうと、みな畏怖している。

そこで、地球殲滅作戦が遂行されようとしていた。

「惑星破壊爆弾」

ほんの10gほどの爆弾で、地球サイズの惑星なら、粉々に砕け散ってしまう。

殲滅作戦の指揮官である大統領は、この爆弾を、地球の日本という国に送り込んだ。

この爆弾は、日本の通貨である「10円硬貨」に良く似せて作られている。

起爆方法は簡単、「爆発しろ」と大統領が思うだけで爆発するのだ。

以下、10円爆弾の追跡レポートである。

10円玉は、とある高校の通学路に落ちていたようで、高校生らしき男の子に拾われていく。

その10分後、街のコンビニで缶ジュース代金として支払われ、レジに入る。

レジに入っていたのも束の間、1時間後には、おつりとして主婦らしき子連れ女性の財布に入る。

翌日、お手伝いのお駄賃として、主婦から子供の手に。そして子

供の貯金箱に入る。

そこから先は不明　　というのも作戦の中止が決まった。  
大統領は、地球を殲滅するに値しない。と判断した。

私の名前は、遠藤　晴海。主婦で、娘と夫と義母の4人で暮らしている。

主婦といっても大変なの。娘を幼稚園に送り迎えしたり、義母も寝たきりの状態なので、つきつきり。夫は薄給だが帰りも遅く、家事は、ほぼすべて私がまかなう。

この間の休みに、たまには家族で食事でもしようって夫にいつても、

「疲れてるし、母さんもいるから」  
って言われた、いい加減息がつまりそう。

私がこんなに尽くしているのに、こんなに……。

「おかあさん、かたこつてる？　たたこつか？」  
と早苗が言ってくれる。子供だけが生きがい。

義母は、二年前に脳溢血で倒れて一命を取り留めたが、それから寝たきりになってしまっていた。義母が元気だった頃は、私も働きに出ていたし、娘の面倒は義母が見てくれていた。あの頃が懐かしい、あの頃に帰りたい。

その日は、朝から義母の調子が悪かった。ここ数日、春の陽気が続いてきたが、今朝は急に冷え込んだからだろう。

「おばあちゃん、だいじょうぶかなあ？」

朝から咳き込む義母を見て、早苗が心配していた。

「大丈夫よ、ママとお医者さんに診てもらって、お薬もらってくるから」

「おくすりがあれば、かぜがなおるの？」

「そうよ、お薬があれば病気が治るのよ」

「じゃあ、おくすりで、またおばあちゃんといっしょに、こうえんでブランコにのれるようになる？」

健気に寝たきりの義母を気遣う娘に、当惑した。

私は疲れきってた。風邪をひいた母に、いつそそのまま亡くなってくれたら……。と思ってさえいた。

しかし、早苗が義母が元気でいた頃を夢見ていたのかと思うと、少し胸が痛んだ。

「お婆ちゃんが歩けるようになるお薬は、とても高いから買えないのよ」

早苗を諦めさせようと、とっさにうそをつく。

すると早苗は、自分のお部屋にトコトコ行って、なにやら持って帰ってきた。

その手には、豚の形をした陶器製の貯金箱が握られていた。

「ねえ、おばあちゃんのびょうきのおくすり、これでたりる？」

そういつて早苗は、豚さんをトンカチで殴りつける。ガチャン。

その中には、50円、10円、5円、1円がいっぱい詰まっていた。

「早苗……」

私は、早苗を抱きしめた。

こんなに小さい子が、一生懸命にお手伝いして貯めたお金を、義母のために差し出してしてくれている。私は、自分が恥ずかしくなった。健康で生きているだけでも感謝しなきゃ。そう自分を励ましたら、また頑張ろうという気持ち湧いてきた。

私は、この子に助けられた。

ありがとう、早苗。

なるほど、地球は救われたのである。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4352s/>

---

地球を救った子

2011年4月13日11時05分発行